

2024 年 10 月高等教育自学考试

日语阅读(二) 试题

课程代码:00844

1. 请考生按规定用笔将所有试题的答案涂、写在答题纸上。
2. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。

选择题部分

注意事项:

每小题选出答案后,用 2B 铅笔把答题纸上对应题目的答案标号涂黑。如需改动,用橡皮擦干净后,再选涂其他答案标号。不能答在试题卷上。

一、阅读文章,从 A、B、C、D 四个选项中选出最佳选项,填写在答题纸上。(21 点)

文章 1 (3×7=21 点)

渋谷駅を出たところでティシュペーパーを配っている若者がいて、花粉症を抱えている私は喜んでもらった。若者は「このティシュを見せて向こうで福引をしてください」といったが、先を急いでいたので、そのまま通り過ぎようとした。すると、後ろで「おかあさん、おかあさん」と①声がる。振り返ると、福引の箱をもった若者が、「おかあさん、福引、福引」と叫んでいる。「ごめん、急いでいるの」といって、タクシーに乗ってからふと思い出したことがある。

私の母は東京に住むようになったとき、東京の人は②わたしを「おばさん」と呼ぶ、と③怒っていた。関西では中年女性を「奥さん」と呼ぶのが普通だった。「おばさん」はよく遠慮のない関係か、時には下目に見ても許されそうな人に使われていたのである。

④そのうち母は「おばさん」ではなく、「おばあちゃん」と呼ばれるようになった。東京にも「ご隠居」とか「大奥さま」という呼び名があったのだから、これは西と東の違いではなく民主主義がうち壊した呼称なのであろう。

今では階級意識が消えただけでなく、未婚既婚の別がわからなくなっている。「奥さん」と呼ぶべきか「お嬢さん」というべきか、見ただけではわからない。年をとっても若造りをするようになったから、「おばさん」と「おばあちゃん」の区別もつきにくい。

——駅からズボンにセーターの、何だか大勢のいい女(つまり私)が出てきた。ばあさんのようだが、大股に人を追い抜いていくところはどうもおばあさんらしくない。(⑤)「奥さん」と呼ぶには、あのランランと光る目は家庭向きではないように思える。「おばさん」と呼ぶべきか「おばあちゃん」というべきか。彼(福引の人)は一瞬考え、そこで最も普遍的な「おかあさん」を考えついたのかもしれない。

⑥このことを人に話したら、そりゃ佐藤さん、ムカついたでしょうといわれたが、どうしてムカつくことがあろう。

おかあさん——

私は気に入った。そのほのぼのとした響き。少なくとも「先生」よりはよっぽどいい。

問1 ①「声がする」とあるが、誰が誰に声をかけたのか。

- A ティシュペーパーを配っている若者が筆者に
- B ティシュペーパーを配っている若者が通る人に
- C 福引の箱を持った若者が筆者に
- D 福引の箱を持った若者が通る人に

問2 ②「わたし」は誰か。

- A 筆者
- B 筆者の母
- C 関西の中年女性
- D 東京の中年女性

問3 ③「怒っていた」とあるが、それはなぜか。

- A 「おばさん」は中年を意味するから。
- B 「おばさん」は東京の女性にしか使わないから。
- C 見知らぬ人から遠慮無く「おばさん」と呼ばれたから。
- D 「ご隠居」か、「大奥さん」と呼ばれたいから。

問4 ④「そのうち母は……ようになった」とあるが、それはなぜか。

- A 孫が生まれたから。
- B 一目で老人と分かるようになったから。
- C 関西と東京では、呼び方が違うから。
- D 民主主義がさらに進んだから。

問5 (⑤) に何を入れるか。

- A それどころか
- B にもかかわらず
- C かといって
- D そのうえ

問6 ⑥「このこと」は何か。

- A 筆者が「おかあさん」と呼ばれたこと
- B 急いでいたのに呼び止められたこと
- C 女性をどう呼ぶべきか、わかりにくくなってきたこと
- D 見知らぬ女性には「おかあさん」と呼べばいいと分かったこと

問7 本文から、筆者は、ふだんどのようによばれていると考えられるか。

- A おかあさん
- B おばさん
- C おばあちゃん
- D 先生

二、阅读文章，从A、B、C、D中选出最佳选项，填写在答题纸上。(25点)

文章2 (3×7=21点)

JRの京葉線ができて、東京デイズニーランドが急に近くなった。デイズニーランドのちょうど前に、駅ができたからだ。駅の名前は「舞浜」という。この駅はデイズニーランドのためにつくられたといっても良いかもしれない。

京葉線を使えば、東京から舞浜までおよそ15分で行ける。電車賃は210円。デイズニーランドから東京のほうへ帰る人は、途中の新木場で営団地下鉄有楽町に乗り換えれば、銀座方面へも簡単に出来る。デイズニーランドで(①)あとは銀座で少し高い食事という計画も考えられるだろう。

ところが、東京駅とデイズニーランドの間にはバスも走っている。こちらの料金は600円。京葉線ができたからなくなって(②)のかと思っていたが、意外にもそうはならなかった。私は先日、仕事でデイズニーランドの近くまで行った帰りに、初めてこのバスに乗った。

16時45分発東京駅南口行き。バスはファンタジア号という二階建てのデラックスバスで、すばらしい乗り心地であった。

(③)、210円に対して600円。デイズニーランドという場所を考えると、一人で乗るとことは少ないから、この違いは大きいだろう。特に家族で乗るときは④大変だろうと思う。

料金だけではない。電車がおよそ15分で行くところを、私の乗ったバスはなんと1時間もかかった。夕方で、道が込んでいたからだろうが、東京の高速道路は一日中込んでいるわけだから、どの時間に乗ってもそれぐらいはかかるはずだ。

電車とバス———。

確かにバスは乗り心地がよいが、⑤右のようなことを考えると(⑥)。電車の方がずっと良い。しかし、私の乗ったファンタジア号は平日なのに満席の状態だった。

どうしてだろう。

私はすぐにはその理由が分からなかったが、バスが高速道路に入り、込んでいるために早く走れなくなったころから、もしかしたら理由はそうなのかもしれないと思うようになった。それはバスの窓から見える景色だ。都会の夕景だ。

問8 (①) の中に何が入るか。

- A 遊ぶ B 遊んだ C 遊んで D 遊び

問9 (②) の中に何が入るか。

- A しまう B おく C みる D ある

問10 (③) の中に何が入るか。

- A だから B しかし C それから D そして

問11 ④「大変だろう」の説明として、正しいものはどれか。

- A お金がたくさんいるから大変だろうということ
B 座る場所がたくさんいるから大変ということ
C 五月蠅いから大変だろうということ
D 乗るのに時間がかかるから大変だろうということ

問12 ⑤「右のようなこと」とあるが、その説明としてどれがいいか。

- A 東京の高速道路は、一日中込んでいるということ
B バスは、二階建てですばらしいということ
C デイズニーランドには、家族で行くということ
D バスは、時間もかかるし、料金も高いということ

問13 (⑥) の中に何が入るか。

- A バスのほうが電車より便利だ
B 二階建てバスのほうがすばらしい
C バスは電車に負けてしまう
D 高速道路は使わない方がよい

問14 この文章の内容と合っているものはどれか。

- A 「私」は、都会の美しい夕景が見たくて、ファンタジア号に乗った。
B 東京駅からデイズニーランドに行く場合、バスでも電車でも行ける。
C 「私」は、ファンタジア号に乗って、デイズニーランドに行った。
D 東京駅からだと、京葉線があるから舞浜より新木場のほうが遠い。

文章3 (2×2=4点)

漢字とひらがな(およびカタカナ)の混合文である日本語文は、実は判読に非常に適しているといえる。それだけに判読による速読・速解を身につけているか否かによって、大きな読書スピードの差が生まれるし、心読一辺倒の読み方では知識や情報に接し理解できる量が格段に劣ってしまうのである。

日本語文のどこが判読・速読に適しているのか。まず文章は重要な語句、キーワードとそうでない補助的なものとの組み合わせにより構成されている。日本語文では、普通、漢字にキーワードが多く含まれ、①それをひらがながつないでいる。つまり、キーワードを多く含む漢字とかなにより文章にアクセントがつけられているから、漢字を中心とするいくつかの語句をかたまりとしてストレートに理解に結びつけやすいのである。より多くの文字を同時にとらえ、より速く理解することは、読書スピードを引き上げることにつながる。また、漢字自体、アルファベットやひらがななどの表音文字とは違い、象形、表意文字であるから、たとえ音としては読めなくても形を見て瞬時に意味をつかみやすい文字である。

(中略)

読みやすいように読点を入れても、ひらがなだけの文章は、非常に読みにくいものである。(②) 漢字が入ると、文章の配列にアクセントが付き、見やすく、そして読みやすくなる。ひらがなだけでは、文字を見て、何をいつているのか瞬時に理解しにくい、漢字ならば見ただけで意味がわかる。心読一辺倒の読み方なら、瞬時に理解できる文字でも音に換えたうえで理解しようとするが、判読ならば一行全部、あるいは、読点部分で区切るようにしながら、すばやく見て理解することもできる。

問15 ①「それ」とは何か。A、B、C、Dから適当なものを一つ選びなさい。(2点)

- A 日本語文 B 判読・速読
C 文章の理解 D キーワードを多く含む漢字

問16 本文の(②)の中にどんなことばを入れたらよいか。A、B、C、Dから最も適当なものを一つ選びなさい。(2点)

- A それから B それでも C たとえば D ところが

三、阅读文章，从A、B、C中选出最佳选项，填写在答题纸上。(24点)

文章4 (3×8=24点)

歳月がながれて三十数年ぶりだった。新聞社の取材に応じて、京都下鴨宮崎町、鴨川のほとりを訪れた。(問17)

新聞社の夕刊には、青春の地を訪ねる連載があった。私にもその注文が来たのである。(問18)

四条大橋の西側たもとで待ち合わせることにした。私は東京から、新聞社の人は大阪からである。小雨が降っていた。約束の十時前に新聞社の車がきた。

その界隈の町並はほとんど変っていない。銭湯も郵便局も小学校もそのままだ。変っているのは松竹下加茂撮影所が、某会社の倉庫になっていることだ。その小路は、撮影所のすぐ近くにあった。

通りで車を下りて、小路へは行っていくと二軒長屋がある。この一軒に私は、昭和十七年春から十八年の秋まで住んだ。

二階建ての長屋だったが、これ以上小さくは作れないだろうと思えた。(問19) 階下が二畳と四畳半、二回が三畳と六畳、京都式の玄関から裏へ通し土間があって、二坪ほどの

植木のない庭があった。

むかしのままだった。時のながれが急に消えた。玄関の格子戸も二階の窓も少しも変わっていない。ただ、二軒がそのまま右へこころもちかしいでいた。

私が住んでいたのは向かって左である。玄関格子戸に手をかけたが開かない、見れば鍵がかかっている。隣の家の格子をあけて声をかけた。主婦が奥の四畳半から玄関の二畳へ現れた。私の家と同じ間取りなのである。

「隣にいた新藤ですが」

ああ、といったきり、主婦はその場に立ちすくんだ。

丸顔で小柄な人だった。化粧をしないのに白い顔だった。それがそのままである。変わったのは私であろう、白髪なのだ。(問 20)

「お久しぶりです」

「ほんまにもう、お懐かしゅうございますな」

「あの時はお世話になりました」

「なんやらもう、夢を見てるようどすな」

主婦の目には涙が光った。

東京から京都へ移ったのは昭和十七年四月である。尊敬していた溝口健二監督に師事するためだった。所属していた東京の映画会社をやめて、見知らぬ京都へ移るのは勇気のことだった。私一人ではとてもふみきれなかったであろう、妻がすすめてくれたのである。(問 21) 私は二十九歳、妻は二十五歳、結婚して二年目だった。

私は売れないシナリオを書いているシナリオライターだった。自分の才能を信じた時期があった。間もなく壁にぶつかる。才能を疑う季節がやってきた。周囲がみな厚い壁になる。脱出しなければ、……たった一本いいシナリオを書ければそれで事は片づくのだが、それが出来ない。(問 22) 京都へ移ったのは脱出の試みだった。

世帯道具は何もなかった、東京へ置いてきたのではない、はじめからそれらしき物を持たなかったのである。私たちは貧しかった。古机と蒲団があるだけだ、狭い長屋ががらんとしていた。

下鴨の町も小路の中の人、見知らぬ他人であった。隣の若い細君だけが親しい声をかけてくれた。ご主人は市役所へ勤めているということで、早い時間に出かけ、夜は遅かった。家計は決して豊かには見えなかったが細君の顔はいつも明るかった。(問 23) 主人を送り出すと掃除である。古びた表の格子に丹念な雑巾がけをした。夏冬つねに和服で、夏は洗いざらしの浴衣に糊を厚くつけて、ぴんと突っ張ったのを好んで着ていた。それはいかにも京女らしい風情だった。

私は、溝口健二監督に読んでもらうためのシナリオをいく本も書いたが、ついにものにはならなかった。(問 24) 外には毎日のように出征兵士を送る歌が聞こえ、また戦死の遺骨を迎える行列があった。私と妻は、その歌や、その沈黙を、家の中で身をひそめて、息を殺し聞いた。私たちは大きく流れる時の中で、ただ抱き合っているほかはなかった。

妻が、突然、血を吐いて倒れたのは一年たった初夏だった。結核にかかったら死を待つほかない時代である。痩せ細り、八月の朝死んだ。

たった一人、隣の若い細君が、妻の死顔のそばににじり寄って、小さな体をかがめて泣いてくれた。

(新藤兼人「隣の住人」による)

問 17 新聞社の取材に応じて、京都下鴨宮崎町、鴨川のほとりを訪れた。

- A 新聞社の取材があって、私は鴨川のほとりを訪れた。
- B 私が鴨宮崎町を取材するために鴨川のほとりを訪れた。
- C ほかの人が取材するために鴨川のほとりを訪れた。

問 18 新聞社の夕刊には、青春の地を訪れた連載があった。私にもその注文がきたのである。

- A 「文章を書きなさい」という新聞社の注文があった。
- B 「夕刊を取ってください」という新聞社の注文があった。
- C 「青春の地を訪ねなさい」という新聞社からの話があった。

問 19 二回建ての長屋だったが、これ以上小さくは作れないだろうと思えた。

- A これ以上小さい建物はないと言っている。
- B 非常に巧みに作っている建物だと言っている。
- C これより素晴らしい建物はないと思っている。

問 20 丸顔で小柄な人だった。化粧をしないのに白い顔だった。それがそのままである。変わったのは私であろう、白髪なのだ。

- A 主婦はただ白髪だけで、ほかはそのままである。
- B 昔とかなり違ったのはあの丸顔で小柄な主婦である。
- C 昔とかなり違ったのは私である。

問 21 所属していた東京の映画会社をやめて、見知らぬ京都へ移るのは勇気のいることだった。私一人ではとても踏み切れなかったであろう、妻がすすめてくれたのである。

- A 私は東京の映画会社に暇を出されたので京都へ移ったのだ。
- B 京都へ行くことにしたのは妻のすすめだった。
- C 京都は私の知っているところなので移ったのだ。

問 22 たった一本いいシナリオを書けばそれで事は片付くのだが、それが出来ない。

- A たった一本いいシナリオを書けば生活に困らなくなる。
- B たった一本いいシナリオを書けば厚い壁から脱出できる。
- C たった一本いいシナリオを書けば溝口健二に師事できる。

問 23 家計は決して豊かに見えなかったが、細君の顔はいつも明るかった。

- A 細君がよりいい生活を送っている。
- B 細君は貧乏な生活でありながら、満足している。
- C 細君の生活はそんなに楽ではない。

問 24 私は溝口健二監督に読んでもらうためのシナリオをいく本も書いたが、ついにものにはならなかった。

- A 私には努力する甲斐があった。
- B 結局、私は成功できました。
- C 結局、私は失敗だった。

非选择题部分

注意事项：

用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

四、将下面短文译成中文。(30 点)

文章 4 (15×1=15 点)

25. 日本の社会を分析するときに、ホンネとタテマエを持ち出す人が多い。どの国にも原則があつて、それに対する例外は存在する。日本の場合もタテマエは原則だ。したがってホンネは原則に従われない例外、ということになるのだが、日本ではホンネを無理にタテマエの中に入れてしまおうとする。あるいは、ホンネは人にわからないように隠してしまって、タテマエを表看板として押し通してしまう。

文章 5 (15×1=15 点)

26. 人はよく美しい言葉、正しい言葉について語る。しかし、私たちが用いる言葉のどれをとってみても、単独にそれだけで美しいと決まっている言葉、正しいと決まっている言葉はない。ある人があるとき発した言葉がどんなに美しかったとしても、別の人がそれを用いたとき同じように美しいとは限らない。それは、言葉と言うものの本質が、口先だけのもの、語彙だけのものではなくて、それを発している人間全体の世界を(中略)背負ってしまうところにあるからである。人間全体が、ささやかな言葉の一つ一つに反映してしまうからである。